



心も体も元気な岡村っ子

おもいやりをもち、
かがやく自分を求めて、
むちゅうになって共に学び
みらいを創っていく子



横浜市立岡村小学校・学校だより R8.6.30 <https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/okamura/>



プールでの学び

校長 鴨野 幸規

「校長先生、今日プール入れるよね？」

6月1日にプール開きをして以来、額に汗を浮かべて登校する子どもたちが、毎朝、目を輝かせて聞いてきます。

今年の6月は、例年と比べて梅雨らしい天候の日が多く、月も半ばになると、「1・2時間目は、少し水温が低いんじゃない？」

「これから晴れてくるから、ギリギリ入れるでしょ。」

など、これまでの経験に基づいて分析する子どもが現れてきます。

小学校のプールについては、老朽化した施設の維持・修繕コスト、教員の管理負担、熱中症への警戒等、様々な問題がありますが、岡村っ子の大多数は、プールに入ることを、毎回とても楽しみにしている様子です。

改めて、小学校に水泳学習、プール施設がある理由を調べてみると、

- 命を守る力をつけるため…日本は海や川が多く、水に関わる機会が多いため、万が一のときにも浮いたり泳いだりして自分の命を守れるようにする。
- 体をじょうぶにするため…水泳は、関節への負担が少なく、全身を使う運動なので、体力や筋力、心肺機能をバランスよく鍛えることができる。
- 水に親しみ、苦手をなくすため…水が苦手な子も少しずつ慣れることができ、楽しみながら「できた！」という自信をつけることができる。
- 安全なルールを学ぶため…水の中での注意やマナーを集団で学ぶことで、事故を防ぐための正しい行動や友達と協力する態度が身につく。
- 環境への適応力を高めるため…太陽光や風、水温の変化を感じながら活動することで、体調管理（熱中症対策や水分補給）に対する意識が高まる。

等が挙げられます。今後、成長に応じて行動範囲を広げていく岡村っ子にとって、プールでの活動が大切な学びであることは間違いありません。

7月18日から長い夏休みを迎え、水辺へ出かける機会も多くなるでしょう。プールでの学びを生かして、安全に楽しい思い出をつくってほしいと願います。